# 猫のワクチン効果判定検査

大阪ラボ

●ワクチン効果の判定のための検査です。

| 検査項目名 | 項目 | 検査材料 | 送付方法 | 所要日数 | 検査方法 | 検査項目の説明、注意事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 猫ワクチンセット<br>Vセット | FPV抗体<br>FCV抗体<br>FHV-1抗体 | 血清・血漿<br>0.1mL | 常温<br>冷蔵 | 5日以内<br>※1 | FPV：HI<br>FCV：ELISA※2、※3<br>FHV-1：IP※2 | 1.感染診断に利用できません。<br>2.FCVとFHV-1 ワクチンは基本的に発症を軽減するもので（相対的防御）、十分なワクチン効果を得られていても感染により症状を呈する場合があります。<br>3.裏面の【結果の解釈】は一般的なものです。特にFCV、FHV-1、FPVでワクチン接種が必要と考えられる場合はワクチン会社にお問い合わせ、またはワクチン会社発行の技術資料を参照の上ご判断ください。 |
| FPV<br>HI抗体検査 | | 血清・血漿<br>0.1mL | 常温<br>冷蔵 | 4日以内<br>※1 | HI | |
| FPV<br>中和抗体検査 | | 血清・血漿<br>0.3mL | 常温<br>冷蔵 | 14日以内<br>※1 | 中和試験 | 1.弊社VセットまたはFPV HI抗体検査でFPV抗体価が10倍または10倍未満の場合のみFPV中和抗体検査を実施させていただきます。<br>2.HI抗体価20倍以上の例およびFPV中和抗体検査のみについては受付できません。<br>3.基本的に検査材料は弊社に保存しているものを供試いたします。 |

※1：弊社受付日を0日とした営業日換算（土、日、祝日、休日、弊社指定休日を除く）
※2：2024年7月より抗体検査の測定範囲を変更いたしました。
FCV　100倍～51,200倍の範囲、12段階でのご報告　→　200倍～6,400倍の範囲、8段階でのご報告
FHV-1　100倍～51,200倍の範囲、12段階でのご報告　→　100倍～3,200倍の範囲、8段階でのご報告
なお、効果判定抗体価は FCV ≧800倍、FHV-1　≧400倍であり、この変更によるワクチン効果判定への影響はございません。
※3：2024年7月よりFCV抗体検査の検査方法を変更いたしました。
IP法　→　ELISA
なお、ELISAでの結果はIP法と一致度が非常に高く、変更による検査値の差異について考慮する必要はございません。

✿非会員病院様の場合、取扱手数料が検査料金に加算されます。

## 猫ワクチンセット検査

大阪ラボ

### 【結果の解釈】

16週齢以上

| FPV | FCV | FHV-1 | コメント |
|---|---|---|---|
| 20未満 | 400以下 | 200以下 | ワクチン効果が十分とは言えません。 |
| 20～40 | 800～1600 | 400～800 | ワクチン効果が期待できる抗体価です。しかし、長期間の効果を期待するにはもう少し高い抗体価が望ましいでしょう。<br>1年後にワクチンを追加接種されるか、抗体検査を実施されることをお勧めします。 |
| 80以上 | 3200以上 | 1600以上 | 長期間のワクチン効果の持続が期待できる抗体価です。 |

12週齢

| FPV | FCV | FHV-1 | コメント |
|---|---|---|---|
| 20以下 | 400以下 | 200以下 | ワクチン効果が十分とは言えません。 |
| 20 | 800～1600 | | 移行抗体の可能性があります。可能であれば、ワクチンの再接種をお勧めします。 |
| 40 | 3200～6400 | 400～800 | ワクチン効果ありと判断できる抗体価ですが、移行抗体の可能性も否定できません。1ヶ月後の再検査をお勧めします。<br>（移行抗体は1/4程度に低下します） |
| 80以上 | 12800以上 | 1600以上 | 長期間のワクチン効果の持続が期待できる抗体価です。 |

FPV、FCV、FHV-1の各月齢における移行抗体との区別にはワクチン接種済みの健康猫100頭の抗体価を測定し、そこで得られた最高の値をもとに移行抗体の半減期から算出したデータを利用しています。

●ごくまれに基準値を上回る血中抗体価であっても、ストレスや、ステロイド剤や免疫抑制剤の服用により防御が十分働かないケースがあります。また、もし将来的に流行ウイルスが変異することがあれば、既存のワクチンでは十分な予防効果が期待できなくなる可能性も否定できません。

●弊社がご提供している基準値は、過去に研究者たちが提唱した値を参考にして最も妥当と考えられる値に設定されております。また、本基準値は弊社の検査系に対するものであり、他社の検査結果には適用することができませんのでご注意ください。

## FPV HI抗体検査およびFPV中和抗体検査

大阪ラボ

### 【結果の解釈】

| | | コメント |
|---|---|---|
| FPV<br>HI抗体検査 | 20未満 | ワクチン効果が十分とは言えません。 |
| | 20～40 | ワクチン効果が期待できる抗体価です。しかし、長期間の効果を期待するにはもう少し高い抗体価が望ましいでしょう。<br>1年後にワクチンを追加接種されるか、抗体検査を実施されることをお勧めします。 |
| | 80以上 | 長期間のワクチン効果の持続が期待できる抗体価です。 |
| FPV<br>中和抗体検査 | 32以上 | 現時点で防御可能な抗体価です。しかしながら、FPV HI抗体検査または猫ワクチンセット Vセットで不十分な抗体価であったことから、<br>1年以内にワクチンの追加接種または抗体検査（まずはHI抗体検査）をお勧めします。 |

●ごくまれに基準値を上回る血中抗体価であっても、ストレスや、ステロイド剤や免疫抑制剤の服用により防御が十分働かないケースがあります。また、もし将来的に流行ウイルスが変異することがあれば、既存のワクチンでは十分な予防効果が期待できなくなる可能性も否定できません。

●弊社がご提供している基準値は、過去に研究者たちが提唱した値を参考にして最も妥当と考えられる値に設定されております。また、本基準値は弊社の検査系に対するものであり、他社の検査結果には適用することができませんのでご注意ください。